



(上) 昨年の全国都道府県対抗駅伝の大阪チーム。前田選手(監督左)はアンカーとして出場(安田監督提供)
(左)「今の部員にとって前田は最高の教科書」と話す安田監督。後ろには全国優勝時の賞状が並ぶ

CULTURE 女子マラソン代表、前田選手へ恩師からエール

東京五輪女子マラソン代表の前田穂南選手(天満屋)が、1月31日、大阪国際女子マラソンで自己記録を更新した。同じく五輪代表の一山麻緒選手(ワコール)に敗れたものの、最後まで粘り強さを見せた。「あれが前田なんです」。大阪薫英女学院高(摂津市)で指導した陸上競技部の安田功監督はそう話す。

同校は、全国高校駅伝で2度の優勝を果たした強豪校。初優勝を飾った2014年、前田選手は3年生だった。だが当時のメンバーに彼女の名前はない。「10キロ以上の長距離を走らせると前田は強かった。ただ、持ち味である持久力を発揮するには高校駅伝の距離は短すぎた」。スピードのある他のメンバーにわずかに及ばず、全国の舞台で走ることなく高校生活を終えた。「悔しいことも多かったと思う。でもパッと気持ちを切り替えて次の目標に向かっていける強さがあった」と監督は振り返る。全国優勝した大会から帰宅した夜も、「私はレースに出てないから

疲れていない」と自主練習に行ったという。3年間、全国高校駅伝への出走は叶わなかったが、当時から「マラソンでオリンピックに出る」と話していた。その言葉通り、一昨年9月に行われた代表選考レース「マラソングランドチャンピオンシップ」(MGC)では、2位の鈴木亜由子選手(日本郵政グループ)に4分近い差をつけて優勝。五輪への切符をつかんだ。

地面をあまりキックしない走法は「体力のロスが少なく、過酷な夏のマラソンに向いている」と監督は言う。また「レースの結果よりも、自分の走りを良くすることにこだわる姿勢」が精神的な安定感につながっている。

開催が危ぶまれる東京五輪。不透明な状況が続くが、監督に宛てた手紙には「金メダルを目指してがんばる」と書かれていたという。安田監督は「過酷な条件になればなるほど彼女の強さが出ると思う。練習の成果をしっかり出して、本人の目標に近づけるようがんばってほしい」とエールを送った。

コラム / COLUMN

梅花から「令和」を込めて

好き嫌いは昔から

食べ物に好き嫌いはありますか? 『万葉集』巻十六には、長忌寸意吉麻呂が次のような歌を残しています。

酢・醬・蒜・鯛・水葱を詠む歌
 酢に 蒜搗ぎ合て 鯛願ふ
 我にな見えそ 水葱の美
 醬酢尔 蒜都伎合而 鯛願
 吾尔勿所見 水葱乃羹物

(巻16・3829番歌)

「酢醤油にニンニクをつきつぶして鯛を食べたい。私に見せるなミズアオイのお吸い物なんて!」と。「蒜」を「ニンニク」と訳しましたが、「ネギ」でも「ショウガ」でも、お好きな薬味を想像してください。酢醤油に薬味を入れて、鯛につけてなんて、今日でもありそうな食べ方です。ミズアオイのお吸い物は、私に見せるなどというのですから、嫌っています。

意吉麻呂は、このような歌をどこで詠んだのでしょうか?私の子どもの頃の話ですが、出された食事に「食べたくない」なんて言うものなら、「食べなくていい」と、料理がテーブルから下げられてしまったのを思い出します。自宅で詠んでいるとは思えません。ヒントは題詞にあります。「酢」「醬」「蒜」「鯛」「水葱」と食べ物の名前が、歌のお題になっています。目の前にあるものから連想される言葉を選び、その場で歌に詠み込むことが求められています。テレビの「笑点」という

番組の大喜利で、落語家さんがお題を出されて、よい答えを出すと座布団がもらえ、だめだと取り上げられている様子を想像してください。意吉麻呂という人は、お酒の席でお題を出されると、直ちに詠んでみせたことと記され、即興歌人と呼ばれています。

おそらくはよそのお宅に招かれて、目の前には鯛のお刺身があるのでしょう。問いかけに応じて、これを食べたいと詠み、引き合いにミズアオイのお吸い物を、自宅で食べ飽きているとして詠んだものと思われる。招待した主は、食べたかったのなら出してよかったと喜んでくれます。同席の者たちは、歌になりそうな言葉を、次々に詠み込んでみせる意吉麻呂に、感心しながらも、「ではこれはどうだ」と新たなお題を出します。

酔いがすっかり回ってからの遊びに、道具は要りません。歌さえあれば楽しいひとときを過ごすことができました。

TEXT

梅花女子大学教授 市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中央大学大学院修了 博士(文学)。著書に『大伴家持論 文学と氏族統一』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数

SELECT



選者 山口 昭男
やまぐち あきお

1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

【俳句の応募方法】
氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかから応募ください。

【宛先】
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW 俳句係まで
FAX 06-6368-3505

【応募フォーム】
<https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160>



※締め切りは毎月25日必着 ※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

「つぶやき評」
私たちは普段、散文を書き、読んでいます。「いつ、どこ、だれ、何を」という形です。ところが俳句は韻文です。詩ですので、前述のことは全く通用しません。散文の中の多くを省略して詩にしていくという作業が必要です。

「佳作」
後から声かけらるる初鏡
足跡を避けて踏み入る蕨取り
たんぽぽと言ふだけでよしリズム感
ころころと笑ふ乙女や春めきて
貝殻の底に寒紅雨模様

高槻市 西田 小夜子	吹田市 竹中 寛人	豊中市 安藤 知明	西宮市 宮部 志津枝	茨木市 山下 美穂子
------------	-----------	-----------	------------	------------

俳句 / HAIKU

1月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

「優秀賞」

春めくや朝一番の厨水

西宮市 宮部 志津枝

春めくものは、数多あります。その中でも主婦にとっては台所で使う水の感覚や温度の変化は、ことさらでしょう。春を待っていたという思いがうかがわれ、好ましいです。「朝一番」という言葉も心に響きます。

「入選」

仮の世に一人座して齋粥

高槻市 新関 迪子

今生きている世を仮の世と言える心の持ちように敬服します。

寒月や道問わるまま話しこみ

茨木市 廣田 静子

よほど話が弾んだのでしょうか。寒さに震えながらも話は続きます。

目薬をさせばこぼるる初鏡

高槻市 西田 小夜子

化粧をした後、目薬をさしました。頬を伝う目薬もめでたさのひとつです。

赤い実をひとつ沈めて冬の水

箕面市 高橋 真実

透明な冬の水。そこに沈む赤い実。鮮やかなコントラストがまさしく冬です。

初雪や言い訳にして手をつなぎ

茨木市 山下 美穂子

手をつなぐことで言い訳のかわりとなりました。空から今年初めての雪です。

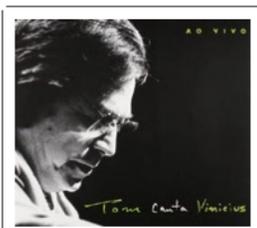
FM COCOLO × CITYLIFE / 音楽のCOCOLO Vol.21

FM COCOLOの人気DJが季節やテーマに合わせた音楽を紹介。

radiko なら、パソコン・スマートフォンでFM COCOLOが無料でクリアに聴ける!

FM COCOLO WHOLE EARTH STATION

リオと東京を結ぶ直線に想いを馳せる一枚



ALBUM

Tom canta Vinicius

ARTIST

Antonio Carlos Jobim

いつ頃からでしょうか、カフェやショップなど街中でボサノバがよく流れるようになりました。そのボサノバの誕生曲「想いあふれて」、代表曲「イパネマの娘」他、数多くのボサノバの名曲を世に送り出したのがリオ出身のトム・ジョビムとヴィニシウス・デ・モラエスです。今は亡き二人、ヴィニシウスの没後10年(1990年)のメモリアルライブをトムの没後にアルバム化したのがこの名盤「ジョビム、ヴィニシウスを歌う」で、ぜひ手に入れたい一枚です。「トム」と「ヴィニシウス」のペアネームは色あせることなく、2016年には世界に再発信されました。リオオリンピック・パラリンピックのマスケットキャラクターの名前が「トム」と「ヴィニシウス」だったこと、ご存じでしたか。開会式で流れた代表作「イパネマの娘」は曲線の美しさを強調していましたが、トムとヴィニシウスの想い出あふれるボサノバの名曲を聴きながら、リオと東京を結ぶ直線に想いを馳せるのはいかがでしょうか。

アントニオ・カルロス・ジョビム / 1927年1月ブラジル、リオデジャネイロ生まれ。ボサ・ノヴァ最大の作曲家。ギタリスト/ピアニスト/シンガー。「イパネマの娘」「波」「フェリシダーチ」など数多くのボサ・ノヴァ・スタンダードを作曲した。60年代の前半に渡米して米国を拠点にして活躍を続けた。世界のポピュラー音楽史の中でも最重要の作曲家のひとり。94年12月8日死去。

SELECT DJ

Monica
モニカ



9月14日生まれ O型。ブラジル・ブラジリア出身の日系2世。ブラジルでの日本語教師を経て、1994年に日本語教師研修生として来日。その後、一度帰国し、今度は学問として日本語を研究するために再来日。大阪大学文学部卒業、同大学大学院文学研究科博士前期課程修了。現在は大学でポルトガル語を教えている。番組では、ポルトガル語をメインにブラジルの人気音楽や文化などを届けています。担当番組は「COCOLO Earth Colors - PORTUGUESE」(金曜 20:00-21:00)をRogerio(ロジェリオ)と担当。番組Twitter @earth_colors_pt